

コンテンツ人材の養成について

2003年11月13日

知的財産戦略本部
コンテンツ専門調査会

1. コンテンツ人材の現状

- (1) コンテンツ制作に関わる人材
- (2) 「企画開発」「プロジェクトマネジメント」「流通戦略」分野では人材不足
「制作分野」では、人材の発掘、新技術の導入が不十分

2. コンテンツ人材の養成のための方策

コンテンツ専門職大学院の整備

多様な研修・交流機会の確保

才能ある者の発掘

新技術の開発と活用

コンテンツ人材の現状

(1) コンテンツ制作に関わる人材

企画開発

プリプロダクション

制作

ポストプロダクション

マーケティング

流通・公開

企画書作成

作品コンセプト作成

工程管理

タイトル制作の監督

ターゲット分析

メディア選択

資金回収策策定

原作(ない場合もあり)

脚本(取材・資料集め)

・監督との調整
・支出の承認
・週間報告書作成

映像編集ディレクション

編集

広告

・ポスター
・新聞広告
等

単価・マージン
決定

PFD合意

(production,
financing
& distribution
agreement:
出資と制作上の
責任を明確化)

制作方法決定

・配役
・ロケーションハンティング

実写

助監督

演出

撮影監督

撮影(カメラ)

サウンドディレクション

作詞・作曲

音響効果

ナレーション等

パブリシティ

・制作発表会
・取材依頼

興行

海外展開

日程と予算の算出

資金の調達

実演家

美術・衣装・道具

アートディレクション

CG
デザイナー

特殊効果

プロモーション

・試写会
・サイン会

二次利用

流通・公開方法決定

技術ディレクション

・オペレータ・システム開発・管理

プログラマ

エンジニア

配給者との調整

《凡例》

プロデューサー

エンタメロイヤー
サポート部分

ディレクター

クリエイター

俳優との出演契約

(日本の場合、全く契約書を
交わさないケースも55%
(*'99年芸団協調べ))

クリエイター管理

制作スケジュール管理

プロジェクトマネジメント(収支予算管理、法務・契約・権利管理)

(2) 「企画開発」「プロジェクトマネジメント」「流通戦略」分野では人材不足
「制作分野」では、人材の発掘、新技術の導入が不十分

■ 企画開発・プロジェクトマネジメント部門

(現状)

- 契約書の慣行や権利処理の意識が業界全体に乏しく、“ビジネス”として未成熟
- 制作現場の管理、法的処理や資金調達・管理、流通戦略などが不十分
- サクセスストーリーの不足

プロデューサー、エンタメロイヤーの不足・育成機関の不足が原因

- ・映画・映像・TVに関する学部：米国は約600校(南カリフォルニア大学等)、日本は約30校
- ・エンタメロイヤーは米国では約4000人(自己申告ベース、有力検索サイトより)、日本は東京に10名程度

■ 制作部門

(現状)

- 優れた若手が脚光を浴び、制作機会を与えられる仕組みが乏しい
- 新しい技術の開発・利用は、米国主導

人材発掘システム、新技術のコンテンツ制作現場への導入が不十分であることが原因

- ・小説分野の「芥川賞」「直木賞」に匹敵する若手登竜門となる賞が、映画等の分野にはない
- ・大学等の研究機関に、コンテンツ制作を前提とした最先端技術やアニメ研究開発の拠点やコンテンツ制作者との情報交換・研究交流の場がない

コンテンツ人材の養成のための方策

コンテンツ専門職大学院の整備

技術・法律・財務・マネジメントに優れたプロデューサー、エンタメロイヤー、ディレクターを養成

コンテンツ専門職大学院

- **教員**: 現役の業界関係者・実務家中心
(例: 現役プロデューサー、弁護士、公認会計士等)
- **学生**: 社会人中心
- **教育**: 充実した体制で徹底的な教育の展開
産業界や関係省庁からの寄付講座・委託研究の積極受入れ

< 教育プログラムの例 >

制作に係る契約、権利関係に関する法律、会計学や金融等の知識を修得する「教育」

実際の制作プロジェクトでマネジメント等の経験を積む「実践の場」

産学連携

スタジオなどの
現場での教育研究
の場(“サテライト
教室”)の設立

産業界

- 現役の業界関係者を教員として提供
- 従業員のキャリアアップの教育機関として積極活用
- 教育プログラムの産学共同開発
- インターンシップ制度の積極運用

多様な研修、交流機会の確保

海外の教育機関も活用し、能力開発、経験、人脈を形成

(1) 海外留学制度の拡充

プロデューサーやエンタメロイヤーとしての能力を有する人材に対して、国は留学制度を活用し、エンタテインメントビジネスの本場で学び、経験し、人脈を築くチャンスを与える



○ 文化庁「新進芸術家海外留学制度」等の拡充

映画・メディア芸術分野における監督、プロデューサー、制作スタッフも対象(2004年度)

(2) 学びと出会いの場の設定 ー多様な教育・研修の場ー

- ・エンタメロイヤーの養成には制作現場の経験・感覚が重要。
- ・制作現場の一線で活躍する一流のクリエイター、プロデューサーによるセミナーや情報交換の場を設定すると同時に、異業種間の交流を推進



- エンタメビジネス関係者と弁護士、研究者等が集まる研究会等の実施を奨励
- 弁護士会等の主催による弁護士向けの講習会・研修会の実施を奨励
- エンタメ業界が主体となって、エンタメビジネスに係る寄附講座(学部・大学院)等を開設し、現職のクリエイター、プロデューサー、弁護士その他の「学びと出会いの場」とすることを奨励

(エンタメロイヤーを含む知的財産に強い弁護士の増大を図ることも課題)

才能ある者の発掘

高度にクリエイティブな作業を行う人材を早期に発掘する仕組みづくり

優秀なクリエイターを確保するためには、こうした人材を育成していくとともに、未知の可能性を秘めた才能ある人材を効果的に発掘できる仕組みが重要。

海外で認められて活躍中の日本人の例

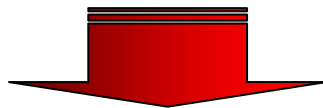
伊比恵子(ニューヨーク大学大学院卒):現在、テキサスを拠点に活動中。

「ザ・パーソナルズ 黄昏のロマンス」を監督 → **アカデミー最優秀短編ドキュメンタリー賞受賞**

石岡瑛子(東京芸大卒):現在、ニューヨークを中心に活動中。

「ドラキュラ」(F・コッポラ監督)で衣装を担当 → **アカデミー最優秀デザイン賞受賞**

「M・Butterfly」(ブロードウェイ演劇) → **トニー賞最優秀舞台デザイン賞受賞**



○ 各種コンペティションやイベントの充実

(東京国際映画祭、メディア芸術祭、デジタルコンテンツグランプリ、AMDアワード等)

○ 優れた若手の顕彰制度の創設・充実

新技術の開発と活用

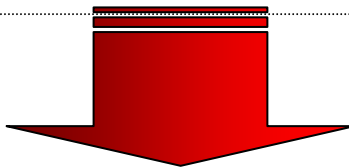
質の高いコンテンツを生み出す先端技術とコンテンツ制作との融合

- ・ 質の高いコンテンツを生み出すためには、最先端の制作技術を駆使して高度な作品を完成させる必要がある。
- ・ 海外では、コンテンツ制作に関する基本技術の開発や応用についての研究体制が整備されている一方、我が国においては、そうした機関がほとんど無い。

▼ 海外における研究機関

MITメディアラボ、ニューヨーク大学 メディア・リサーチ研究所

南カリフォルニア大学 インテグレートド・メディア・システムズ・センター など



- 最先端映像制作技術に関する研究教育機関の整備
- CG等の最先端コンピュータ技術とコンテンツ制作技術との融合